

1. 件名：泊発電所放射性廃棄物処理建屋から放出している気体廃棄物の放出量の報告値誤りについて

2. 日時：令和元年12月24日 14時00分～15時00分

3. 場所：原子力規制庁 2階会議室

4. 出席者

原子力規制庁 原子力規制部 検査グループ

実用炉監視部門 吉野企画調査官、小野上級原子炉解析専門官、
加藤原子力運転検査官、武岡主任監視指導官

検査監督総括課 佐藤課長補佐

専門検査部門 杉山主任原子力専門検査官、久我主任原子力専門検査官

北海道電力株式会社 原子力事業統括部 部長 他3名

5. 要旨

(1) 北海道電力株式会社（以下「北海道電力」という。）より、泊発電所における放射性廃棄物処理建屋焼却炉煙突からの放射性気体廃棄物放出量（以下「放出量」という。）の算定に誤りがあったことについて、資料に基づき説明があった。

○同煙突からの放出量の測定は、配管等の腐食防止の観点から放射性物質を含まない空気希釈しながら測定しているが、放出量を算定する際に、この希釈効果を補正していなかった。

○この算定誤りは、1988年の泊発電所1号機試運転時から誤っていた。

(2) 原子力規制庁より、以下について引き続き保安検査等で確認していくことを伝え、北海道電力より了解した旨回答があった。

○排気筒のサンプリング空気を希釈して測定する方法は、どのような考え方のものか。

○検出限界以下「ND」は、どのように評価するのか。

○換算係数は、どのような根拠に基づきどのように設定するのか。

6. 提出資料

資料：「泊発電所放射性廃棄物処理建屋から放出している気体廃棄物の放出量の報告値誤りについて」（2019年12月24日 北海道電力株式会社）

以上